

支援アドバイザーを通じて行い、プログラム修了後も同じ担当者と相談を続けられるのも好評です。



働く人にうれしい平日20時までの利用時間(東京しごとセンター)

以下は東京しごとセンター課長の岡野弘さんの話。「プログラムでは25人の参加者を5人ずつに分け、グループワークを行います。就職成功者や企業の人事担当者との交流会、職場体験もあります。セミナーを聴くだけの座学ではなく、グループで学習などに取り組むことで、より積極的な体験ができます」。

同じく総合相談係長・南耕太郎さん。「参加者は30代後半から40代前半の方が多く、似た環境にいる仲間ができる。この10日間が情報交換やモチベーション

を高め、再就職へ踏み出すきっかけになるようです。また、就職が決まりやすいのは、職種など希望範囲を広げられる方。広い視野で仕事を探して、結果的に希望していた職種に就けた例もあります」。

間口を広げた職探しで成功

受講生
Aさん
30代前半

子ども1人。出産を機に離職して1年半、前職は接客業でしたが、シフト制や土日勤務がある販売業などは子育てしながらは難しいと考え、離職中に簿記の勉強をしてきました。第一希望は経理。「プログラム」参加後に資格も取りました。求職は経理だけにこだわらず間口を広く探したところ、6か月後に希望する経理職の正社員に。高い意欲が功を奏しました。

女性専用就職支援アドバイザーは家庭と仕事の両立を目指す働き方などの相談を受けています。また、相談やセミナー、プログラムを利用している間、満1歳から6歳までの未就学児を預けられます。

ハローワークや他の就業支援機関と併せて利用してはいかがでしょうか。

大学で学び直し、スキルを上げる

「やりたい仕事」を目指して、必要な知識とスキルを大学で学び直す選択もあります。2007年、文部科学省から3年間の委託を受けて日本女子大と昭和女子大で開講。現在も両大学は独自のプログラムで再チャレンジ支援を継続しています。

スキルを高め社会貢献を目指す

「日本女子大学生涯学習センター」

入学のハードルも高い
「リカレント教育課程」

履修課程1年間、応募資格は4年制大学卒で就業経験者に限定。授業料年額24万円＋入学金1万円。修了には、必修と選択科目合わせて14科目、28単位が必要で。

必修はTOEIC730点以上を目指す英語特訓やITリテラシー、キャリアマネージメントなど。選択には初級簿記、貿易実務、金融や企業会計入門、消費生活アドバイザーや社会保険労務士の資格取得準備のための講座があります。

「宿題も多く、勉強はかなりハード」とセンター所長の高頭麻子先生。受講生の6割強が既婚者ですが、非正規から正規雇用を目指す未婚の女性たちも多いそう。過去の受講生平均年齢は38・1歳(P6グラフ参照)

受講生
Bさん
44歳

ITリテラシークラス受講、子どもは中3。総合職で入った大手メーカー

1に20年近く勤務しましたが、夫の海外赴任(2年間)で退職。帰国後、再び正社員で働こうとハローワークの求人に応募したものの、ことごとく失敗。「ほとんど年齢で落とされました。職歴があっても、私には資格がない。消費生活アドバイザーの資格を目指してここに来ました」。

初めは正社員にこだわっていましたが、今は「学んで、多様な働き方があることを知りました。資格を取ったら、どんな形でもいいので社会貢献をしたい」とBさんは言います。